

第ⅩⅢ因子		276500			
factor13		担当部署			
		血液			
<b>検査オーダー</b>					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダー手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→血液学→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00			
<b>検体採取・搬送・保存</b>					
患者の事前準備事項		空腹時静脈より採血し、気泡、溶血及び組織トロンボプラスチンの混入を防ぐ。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1 全血	2 黒小	3.2%クエン酸 Na	1.8	mL	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1) 採取容器違いの検体 2) 凝固検体 3) 採血量過不足の検体 4) サンプルングできない検体			
保管検体の保存期間		室温・当日中（追加検査については、検査室に要問合せ）			
<b>検査結果・報告</b>					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中				
生物学的基準範囲		70~120% EX 共通 CL1141 : 「臨床検査法提要 改訂第 35 版」435				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	%
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
70	120	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		<p>第 X Ⅲ 因子の低下や欠損症では、いったん止血した後に遅延性に再出血を認めることが特徴である。先天性の第 X Ⅲ 因子欠損症では、生後約 1 週間で臍帯断端部から再出血をきたすことがある。また頭蓋内出血の頻度も高く、創傷治癒の異常や習慣性流産をもたらす。DIC や重症肝障害においてはほかの凝固因子と同様に低下する。シェーンライン・ヘノッフ紫斑病では第 X Ⅲ 因子が低値を示すことがある。まれに第 X Ⅲ 因子に対する抗体を生じる症例が報告されており、出血傾向を示す。</p> <p>EX 共通 CL1141 : 「臨床検査法提要 改訂第 35 版」 434-435</p>				